

山口大学研究プロジェクト
コロナ危機と時間学 ～新型コロナウイルス感染症と私たちの過去・現在・未来～

研究成果報告書

主研究者	高橋雅子	所属	教育学部
共同研究者	沖林洋平（山口大学） 石田千陽（附属山口小学校） 白地めぐみ（附属光中学校）		
研究課題名			
1. コロナ後（未来）の学校を見据えた授業の不自由感に対する効果的な没入感を目指した授業づくり—児童生徒や学生の特性を踏まえた多層的分析— 2. 大学生のコロナ後（未来）の人生に対する長期的展望と動機づけの日台比較研究			
研究内容と成果の概要			
<p>本研究プロジェクトでは、2022年度までは、主観的授業時間の没入感が対面授業とZoomなどのオンライン授業、動画視聴などの非対面授業でどのように異なるかを検討してきた。各年、2000サンプル程度を分析対象として研究を進めてきた。その結果、Zoomを用いたオンライン授業では、学生が授業で行う活動が多くなるほど授業に対して没入できなくなるという結果が得られた。本研究のアプローチは、2023年度も継続中であるものの、Zoomを用いた授業が少なくなってきたことや調査を行うためのZoomを用いた授業のために人工的な授業環境をつくらなければならなくなったことなどが原因で、Zoomを用いた授業実施が困難になってきた。そのため、本研究では、当初は昨年度より進めてきた小中学校における授業を対象として、授業スタイルと没入感の関係に関する研究を進めてきた。またこれに並行して、本研究PJの予算を利用して2023年3月に台湾に訪問した際に、台湾の大学生を対象として大学生の長期的な人生に対する展望と人生満足度、学習動機づけや学習方略の関係について調査を行った。台湾の淡江大学の協力を得ることで300名程度から回答を得ることができた。そこで、本報告書においては、大学生の人生に対する長期的展望と動機づけの日台比較研究の成果を報告する。</p> <p>長期的展望については、将来の希望職種を尋ねた。人生の満足度はDienerら(1985)による人生満足度尺度と学校生活満足度項目を用いた。学習動機づけは学習動機の2要因モデル尺度を用い、学習方略尺度は自作した。調査の結果、台湾の大学生からはゆがみの少ない回答を得ることができた。このことから、台湾の大学生は日本の学術的調査に対してポジティブな印象を抱いていることが示唆された。台湾の大学生の長期的展望と学習動機の関係では、金融やエンジニアリング志向の学生は、自律的な動機と関係する充実志向や訓練志向が高かった。公務員や教員志望の学生はどの動機づけも5点を満点として4～4.4程度という得点範囲であった。人生の長期的展望がはっきりしているものは金融やエンジニアリングの職種を希望し、安定した人生を希望する者は公務員や教員を希望することが示唆された。</p> <p>大学生生活に対する満足度と関連する学習方略動機づけは実用志向や訓練志向であった。また、大学生生活に対する満足度とネガティブに関連する学習方略はネガティブ学習行動（項目例「私は授業内容についてなんとなく学習してしまう」「多くの授業のテーマが複雑で理解することが難しい」）であった。</p>			

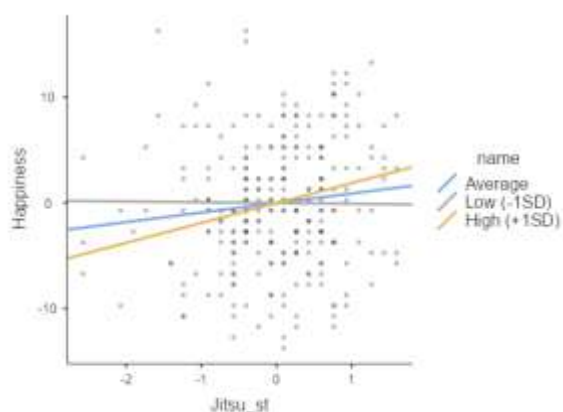
研究進捗状況・研究成果の公表状況等

論文、学会等発表、実データの利用状況、研究の有用性を広めるための活動など

「授業に対する没入感や不自由さを組み込んだ授業作りが授業時間の長さのイメージに及ぼす影響—児童生徒や学生の特性を踏まえた多層的分析—」については、2023年3月に岡山大学で開催された日本音楽教育学会中四国地区例会で口頭発表を行った（発表テーマ：「音楽科における汎用的なオンライン授業記録手法の開発—Google フォームを活用した振り返り—」）。また、大学生の人生に対する長期的展望と動機づけの日台比較調査において明らかにされたことは、Jsise 研究会や Jset の 2024 年度春季大会で発表する予定である。本研究成果については、日本の複数の大学でデータを追加し、国際学会誌等での発表を実現したいと考えている。

その他特記事項

学習動機づけが大学生に活の満足に与える影響における専門家的学習方略の影響



左図は、実用志向が大学生生活の満足度を有意に高めることを示しているが、これに、専門家的な学習方略がその効果を促進させることを示している。日本における学習方略研究が台湾の大学生でも再現されたことを示す興味深い内容である。